

テーマ 4

「心と社会のバリアフリー ～バリアってどこにあるの?～」(人権課題:障害者)

1 学習のねらい・人権教育上の視点

- (1) 「社会モデル」や「合理的配慮」の考え方について理解し、すべての人々が安心して参加・貢献ができる共生社会の実現に向けて、心のバリアフリーを実践しようとする意欲や態度を身につける。

2 指導上の留意点

- (1) 「社会モデル」の考え方を学ぶ中で、バリアの解消のための取組に考えるだけでなく、自分自身がバリアを作っていることもあることに気づかせる。
- (2) 障害について診断の有無は必要条件ではないことや、障害名は周りの人と区別するためものではなく、接し方や支援方法を考えるためのヒントになるということに気づかせる。
- (3) 生徒や家族に障害のある人がいる場合には、授業の内容や展開について工夫や配慮が必要である。

3 展開例

学習活動	指導上の留意点、使用する資料
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">障害者としての「障害」とは何だろうか。</p> <p>1 問について考え、発表する。</p>	<p>○ 「社会モデル」について説明し、障害は個人の心身機能の障害のみのことではなく、社会的障壁の解消という点で自分にもできることがある点に気づかせる。</p>
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">社会での活動や参加を制限するバリアにはどのようなものがあるだろうか。</p> <p>2 4つのバリアの具体例を確認し、自分の身のまわりのバリアを考える。 考えたバリアについて、取り除くための工夫や配慮を考える。</p>	<p>○ 社会のさまざまなバリアについて考えさせることによって、多様な人がいることを理解させる。</p> <p>○ 社会環境は多数派が規準として整備されていることが多く、バリアに気づきにくい。自分がバリアをつくりだしている場合もあることに気づかせる。</p>
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">図A・Bの台の使い方から、公平な支援や配慮とはどのようなことか考えよう。</p> <p>3 図A・Bについて、台の使い方の違いから平等と公平の違いについて考える。 さらに、台を使う以外の方法での、3人ともが野球観戦をするためのバリアを解消する方法を考える。</p>	<p>○ バリアや個々に合った支援に関して「キーワード」の「合理的配慮」について説明し、台の使い方に当てはめて理解させる。 型にはまった対応でなく、多様な考え方に気づかせる。</p>
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">濱田祐太郎さんのような視覚障害のある人を学校に招く場合にどのようなことがバリアとなるだろうか。</p> <p>4 濱田さんに関する資料を読み、4つのバリアの視点から、バリアとなるものやその解決案について考え、班やクラスで共有する。</p> <p>5 ふり返りを記入する。</p>	<p>○ 身近な場所で、自分にできることを考えることで、自分事として考えさせ、共生社会の実現に向けての意欲と態度を身につけさせる。</p>

[ワークシート]

心と社会のバリアフリー ～バリアってどこにあるの？～

年 組 番 名前

1 障害者にとっての「障害」とは何だろうか。

--

2 身近にある具体的なバリアを書き出し、それぞれの解決策を考えてみよう。

バリアの種類(○をつける)	バリアのある状態	バリアフリーに向けての解決案
物理的 ・ 制度的 文化・情報面 ・ 意識上		
物理的 ・ 制度的 文化・情報面 ・ 意識上		

3 図A・Bの台の使い方から、公平な支援や配慮とはどのようなことが考えよう。

公平な台の使い方は図[] そう考えた理由は・・・
台を使わない方法でのバリアフリーを考えてみよう。

4 例えば視覚障害のある人を学校に招く場合にバリアとなるのは何だろうか。その解決案も考えよう。

バリア	解決案

5 本時の学習について、気づいたことや今後の生活に生かしていこうと思うことを記入しよう。

--